

GPE グローバル支払生態系

GPE Global Payment Ecosystem

▶▶▶ ステ이블コイン（安定仮想通貨）決起 の背景



ビットコインの決起は、勢いが速く猛烈である暗号通貨の発展を促します

ビットコインが誕生して以来、暗号通貨の市場は速い発展を遂げて、今まで市場に凡そ1700種の暗号通貨が流通しました。

暗号通貨の価格変動がその流通・使用を妨げます

暗号通貨は、価格に激しい変動性がある為、現実世界における応用と発展を極めて大きく妨げ、且つ、人々の日常的な取引及びクロスボーダー貿易の価値転移に影響を与えます。市場参加者は、大きな程度で暗号通貨を一種の資産として見なすので、市場の流通性が下がります。

ステーブルコイン（安定仮想通貨）の決起

従って、投資者は、一層良い価値貯蔵手段を要求するので、ステーブルコイン（安定仮想通貨）を決起し始めました。



▶▶▶ ステータブルコインの定義と価値

ステーブルコインは、その他の一種の資産と関係をつける暗号通貨（例えば黄金、白銀、ドル、その他の一種の暗号通貨等）。ステーブルコインは、一種のグローバル通貨であり、中央銀行と関係をつけず、その他の通常の状態における暗号通貨に反して、これは、相対的に安定的な価格を有しています。



ステーブルコインの価値は、暗号化された支払ネットワークの分散型システムシステムと結びつくと同時に、相対的に安定的な価格レベルを有することによって、価格が激しく変動しているデジタル通貨市場で、良好な資金リスク回避、資産価値貯蔵と支払決算等の機能を有するのを保証することです。

▶▶▶ ステータブルコインの4大機能

安定トークンは、ブロックチェーンにおいて、主に4大機能を有しています。価値尺度、取引媒体、価値貯蔵と支払決算。



01

価値尺度

デジタル資産数量が速く成長しているため、あるタイプのトークンを価値尺度として使用しなければなりません。その一方、ステーブルコインは、その法定通貨の価値が安定である特徴を頼みとして、ブロックチェーンの価値尺度機能

取引媒体

取引媒体として、企業と消費者は、取引プロセス中に巨大な価値変動リスクを引き受けません。



02



03

貯蔵手段

価値貯蔵手段として、投資者は、デジタル資産を一層有効に管理し、過度な資産損失を減少します。



04

支払決算

安定的なトークンは、非常に低い変動があるので、支払決算ツールとして良い認可度を有

▶▶▶ 抵当型ステーブルコインの弊害分析

集中抵当型

集中型資産へのアンカーリングを行うと、
USDT、GPET、TUSD、
PAX、GIMINI

- ◆ 集中型発行は、有効な平衡保持機制が欠如しているため、
 - ◆ 発行会社に倒産、金持ち逃げ及び銀行による預金凍結リスクが存在しています。
 - ◆ 法定通貨備蓄量を公開しない状況の下で、通貨を任意で過量発行を実施でき、
- 、信任危機が発生する場合には取り付け騒ぎが発生する可能性があります。

暗号資産抵当型

N (>1) 倍の暗号資産で抵当に入れ、
且つ、BitCNYと
DAI

- ◆ 抵当物価格変動が比較的大きく、抵当者は、抵当物清算リスクによる比較的大きい余計な損失を引き受けます。
- ◆ 市場において片側で月楽市況が発生する時に、ステーブルコインの流動性が欠如する為、リスク制御機制が失効し、アンカーリング価格外になります。

第三種のステーブルコイン——GPE

抵当型ステーブルコインは、本質として皆抵当が必要で、その一方、第三種のステーブルコインの実現方式がアルゴリズム銀行+知能本契約書です。

01 アルゴリズム銀行

アルゴリズム銀行の規制を通じて、通貨量の弾性を自動に調節し、即ち、市場における需給関係によって、通貨量を決めます。

02 知能契約書

発行の公開性と透明性を保障し、且つ、流通と取引を一層安全にします。

GPEは、「アルゴリズム銀行+知能契約書」の方式を通じて作り上げられた理想型ステーブルコインを指します！



▶▶▶ アルゴリズム銀行+知能契約書に関する詳細な説明



Robert Sams



名目貨幣の発行原則

Robert Samsは、2014年にSeignorage Sharesを提出した。その基本的な構想は下記の通りです。名目通貨の供給量が弾性的で、供給が需要を上回る時に、我々は、通貨の発行量を減少し、供給が需要に追いつかない時に通貨の発行量を増やすことによって、その価格制御の目的を実現します。



アルゴリズム銀行

この機制の下で、通貨価値の安定性を保持し、抵当に基づかず、その代わりに、分散型構想で法定通貨の価値アンカーリングを自動に実現します。言い換えれば、知能契約書で中央銀行を代替し、且つ、アルゴリズムでマクロ調整をします。アルゴリズムは、この機制の核心であるので、この機制は、ある人達により「アルゴリズム銀行」と称されます。

▶▶▶ GPE案内

GPEは、世界有名な技術チームにより共に構築された知能契約書に基づく次世代の分散型・安定型生態系です。一つの分散型暗号通貨支払生態の構築を通じて、拡張可能な公共チェーン間契約書 支払ソリューションを提供し、ユーザの為に安全的、高効率の、便利的且つ共有的なデジタル資産支払サービスを作り上げます。



▶▶▶ GPE支払の優位性

安定性・安全性

01

GPEは、厳格に人民元：ドル=1:1の比例で発行することによって、その価格安定性を保持します。

透明性・公開性

03

GPEは、定期的に公式サイトで銀行積立金勘定を公開し、且つ、権威第三者会計監査部門を導入して定期的な審査を行い、発行数量を、知能本契約書のウェブ・アドレスで実時間に調べることができるので、最大程度の分散性を実現できます。

02

コスト節約

GPEは、支払に、更なる高效性・安全性・付加価値性を与えると同時に、その運営コストが僅かに分散型支払企業の1%です。

高効率性・簡単性

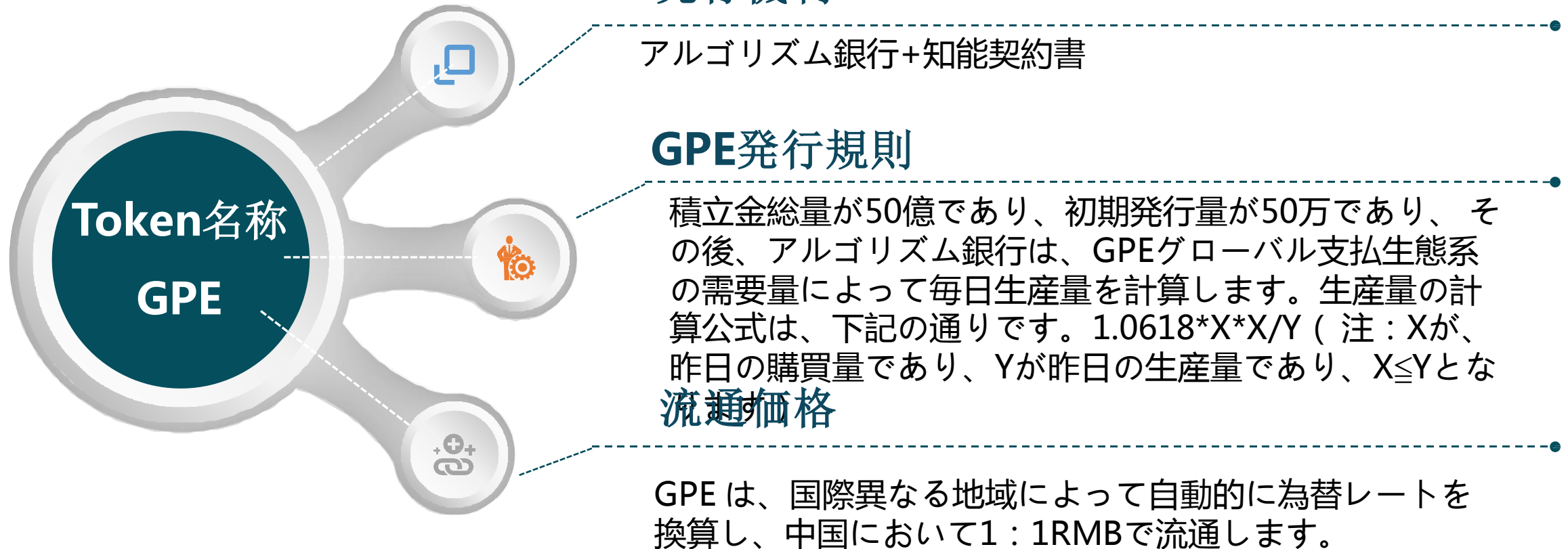
04

GPEは、10分間以内において、支払、為替レート換算と決算を含むすべての振替プロセスを完成できます。

(伝統的なクロスボーダー振替フローは、平均に3-4営業日を待ちます)



▶▶▶ GPE発行機制



▶▶▶ GPEの独創的な分解・合併モデル



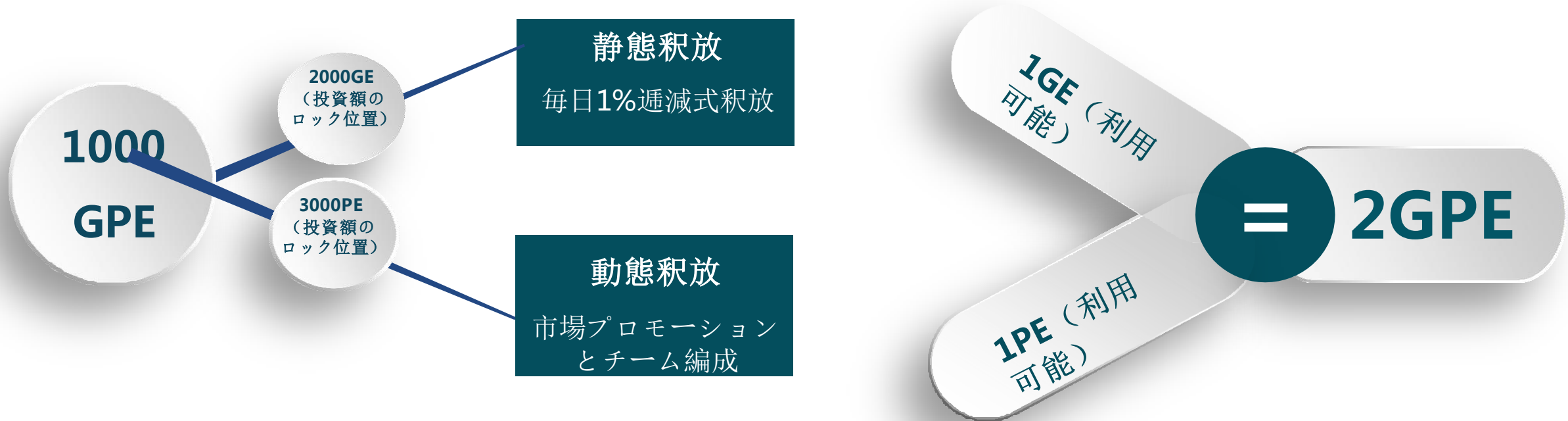
GPE分解・合併激励モデルで、入力・出力がそれぞれ一つあり、永遠に泡沫がなく、循環的に存在し、永続に運行します！

分離・合併モード 革命・革新



GPE分解・保存規則：2倍拡大して**GE**にし、3倍拡大して**PE**にします。

GPE合成規則：1 **GE**(利用可能) + 1 **PE**(利用可能) = 2 **GPE**



備考

- ◆ 静態釈放となる**GE**と動態釈放となる**PE**を合成してからこそ、初めて取引を行うことができます。
- ◆ **GE**に対して取引と振替を行うことができません。利用可能な**PE**がなければ、取引区域内で**GPE**で購入します。
- ◆ **PE**に対して取引を行うことができるが、振替を行うことができません。

▶▶▶ 会員等級

GPEに、合わせて四つのノードがあります。それぞれ下記の通りです。



G0

普通のノード

G1

GEの投資ロック位置数量が1000GE以上です。

G2

六つのG1を直接リリースして、GEの投資ロック位置数量が3000以上です。

G3

六つのG2を直接リリースして、GEの投資ロック位置数量が6000以上です。

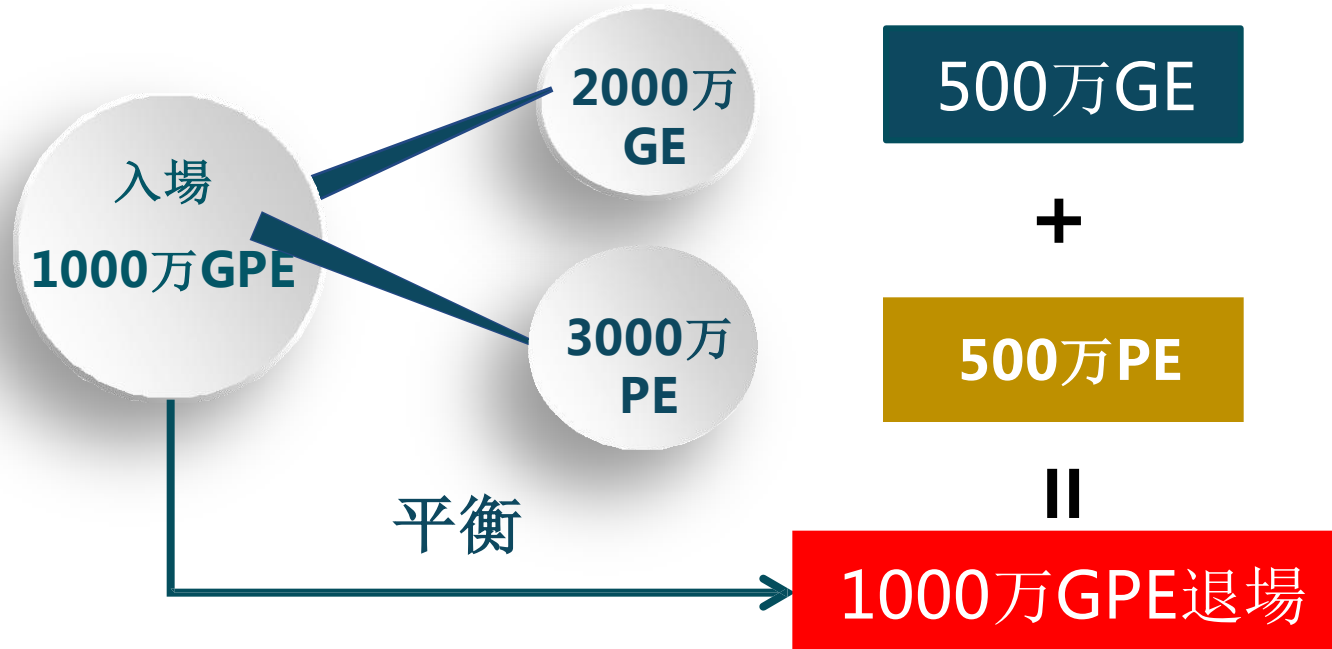
▶▶▶ PE積放機制

No	GE投資ロック位置	等級	PE投資ロック位置積放	PE積放機制と条件			等級昇格
1	≥1000枚	G1ノード	最高6世代3%	一つのG1を推奨し、1世代3%を取ることができます。	三つのG1を推奨し、3世代3%を取ることができます。	六つのG1を推奨し、6世代3%を取ることができます。	G2ノード
2	≥3000枚	G2ノード	最高15世代3%	一つのG2を推奨し、9世代3%を取ることができます。	三つのG2を推奨し、12世代3%を取ることができます。	六つのG2を推奨し、15世代3%を取ることができます。	G3ノード
3	≥6000枚	G3ノード	最高15世代3%+グローバル3%（等級差）	一つのG3を推奨し、15世代3%+グローバル1%を取ることができます。	三つのG3を推奨し、15世代3%+グローバル2%を取ることができます。	六つのG3を推奨し、15世代3%+グローバル3%を取ることができます。	システム

PEの最高積放比例=15代3%+グローバル3%+システム2%=50%

▶▶▶ GPE入力・出力がそれぞれ一つあり、永遠に 泡沫がありません。

例えば、市場進入時に1000万GPEで入場し、PE動態釈放機制によって、下記結果を得ます。



PE動態釈放の比例に基づき、最
高50%であり、500万
PEを釈放できます。

▶▶▶ GPEステーブルコインの優位性



01

価値が安定です。

02

永遠に泡沫がありません。

03

現金化リスクがありません。

- ◆GPE/USDT取引
- ◆市場ヘッジ
- ◆契約書共鳴でUSDT両替

》》》 動態賞与で、現金化に心配がありません。



二つを一つに合併する規則によって、静態**GE**は、動態**PE**を購入しなければなりません。



PEは、**GE**の硬直的需要です。



動態賞与は、供給が需要に追いつきません。

GE



PE



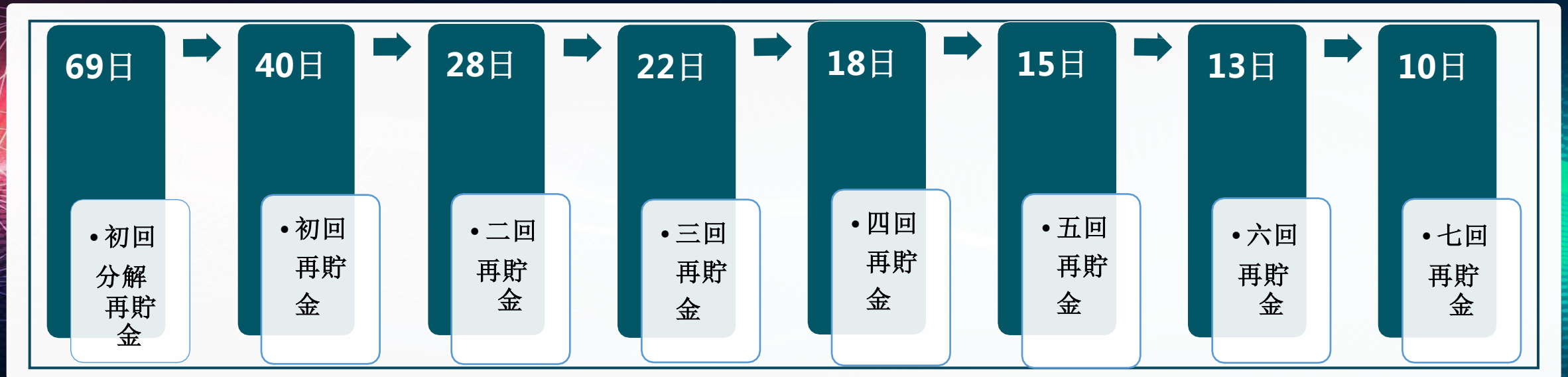
GPE

従って、動態賞与は、現金化に心配がありません！

》》》 GPEの核心的優位性

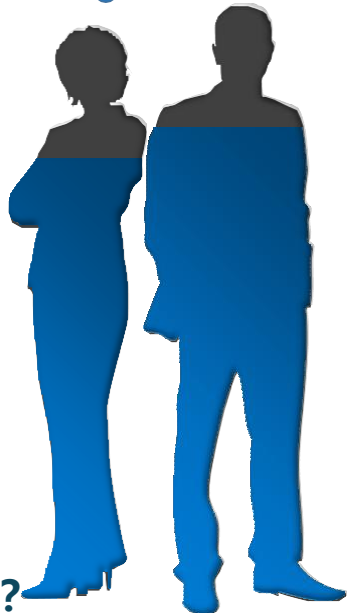
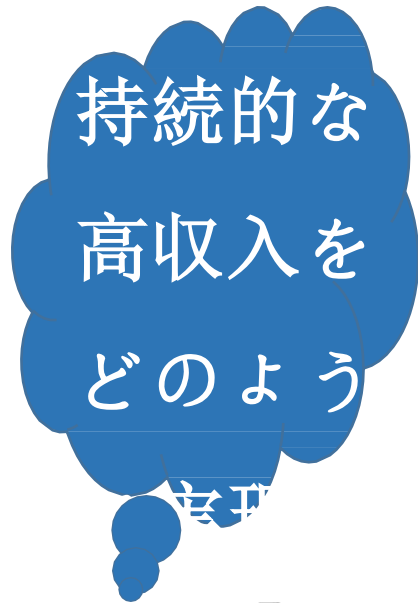
静態は、コスト回収サイクルが短く、その後改めて貯金する度に、サイクルが短くなります。

仮にユーザAが分解で1万GPEを貯金すると、投資ロック位置2万GEと3万PEを取得できます。GEは、毎日1%遞減積放となり、PEは、共有がないので、積放せず、69天後利用可能な積放として、GE1万個あります。69天後、取引区で1万個のGPEで1万個のPEを購入し、2万個のGPEを合成し、コスト回収後、1万個のGPEで循環参加を行って改めて貯金します。これによって類推すると、改めて貯金する度に、コスト回収サイクルが短くなります。



▶▶▶ 持続的な高収入をどのように実現しますか？

ノード共有倍増参考表	
ノード代数	分解再貯金代数
第1世代	6回取引
第2世代	36回取引
第3世代	216回取引
第4世代	1296回取引
第5世代	7776回取引
第6世代	46656回取引
第7世代	279936回取引
第8世代	1679616回取引
第9世代	10077696回取引
.....	



最高等級になり、且つ、6世代内で5000回取引となり、各回取引で2000GPE分解再貯金で計算します。

最高等級になると、15世代3%+全ネットワーク3%の動態奨励を享受できます。これで、5000回取引となり、各回取引で2000GPE分解再貯金を行うと、下記を得ます。

$$\text{積放PE数量} = 5000 * 2000 * (15\text{世代}3\% + \text{全ネットワーク}3\%) = 60\text{万}$$

最高等級になり、且つ、9世代内で5000回取引となり、各回取引で2000GPE分解再貯金で計算します。

最高等級になると、15世代3%+全ネットワーク3%の動態奨励を享受できます。これで、5000回取引となり、各回取引で2000GPE分解再貯金を行うと、下記を得ます。

$$\text{積放PE数量} = 50000 * 2000 * (15\text{世代}3\% + \text{全ネットワーク}3\%) = 600\text{万}$$

600万GEを組み合わせると、1200万の収入を得ます！

仮に毎月一回再貯金すると、どうなりますか？仮に取引回数が一層多く、分解再貯金額が一層高いと、どうなりますか？

一層多い世代の場合、どうなりますか？

▶▶▶ 循環的再貯金の理由

01

コスト回収サイクルが短く、且つ、改めて貯金する度に、コスト回収サイクルが短くなります。



02

動態収益が安定であると同時に多いので、より多いPE数量を取得する為に、持続的に再貯金しなければなりません。



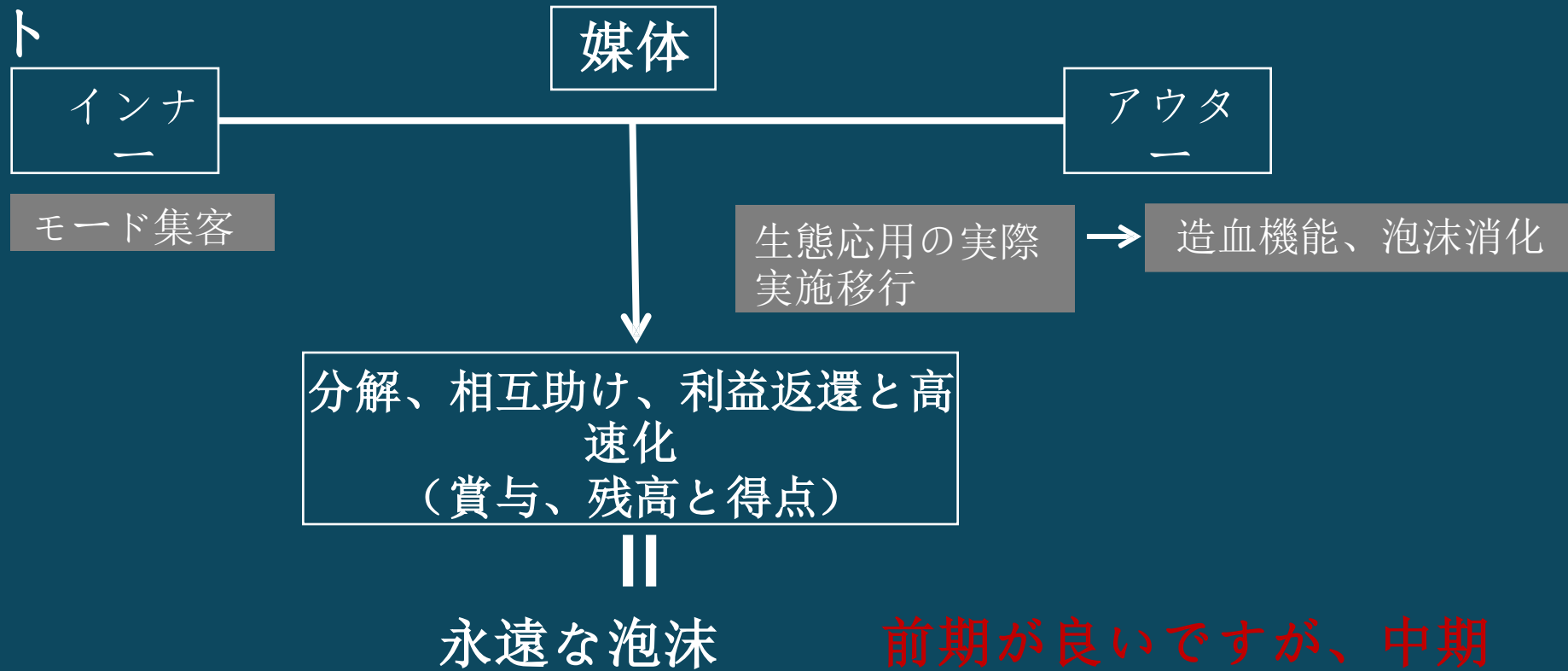
03

PE積放規則であり、異なる等級を要求します。その他のノードに異なる数量の投資ロック位置GEを維持する必要があるため、ユーザは再貯金したく、且つ、再貯金する勇気があります。



強大な生態と持続可能な経営

昔のプロジェクト

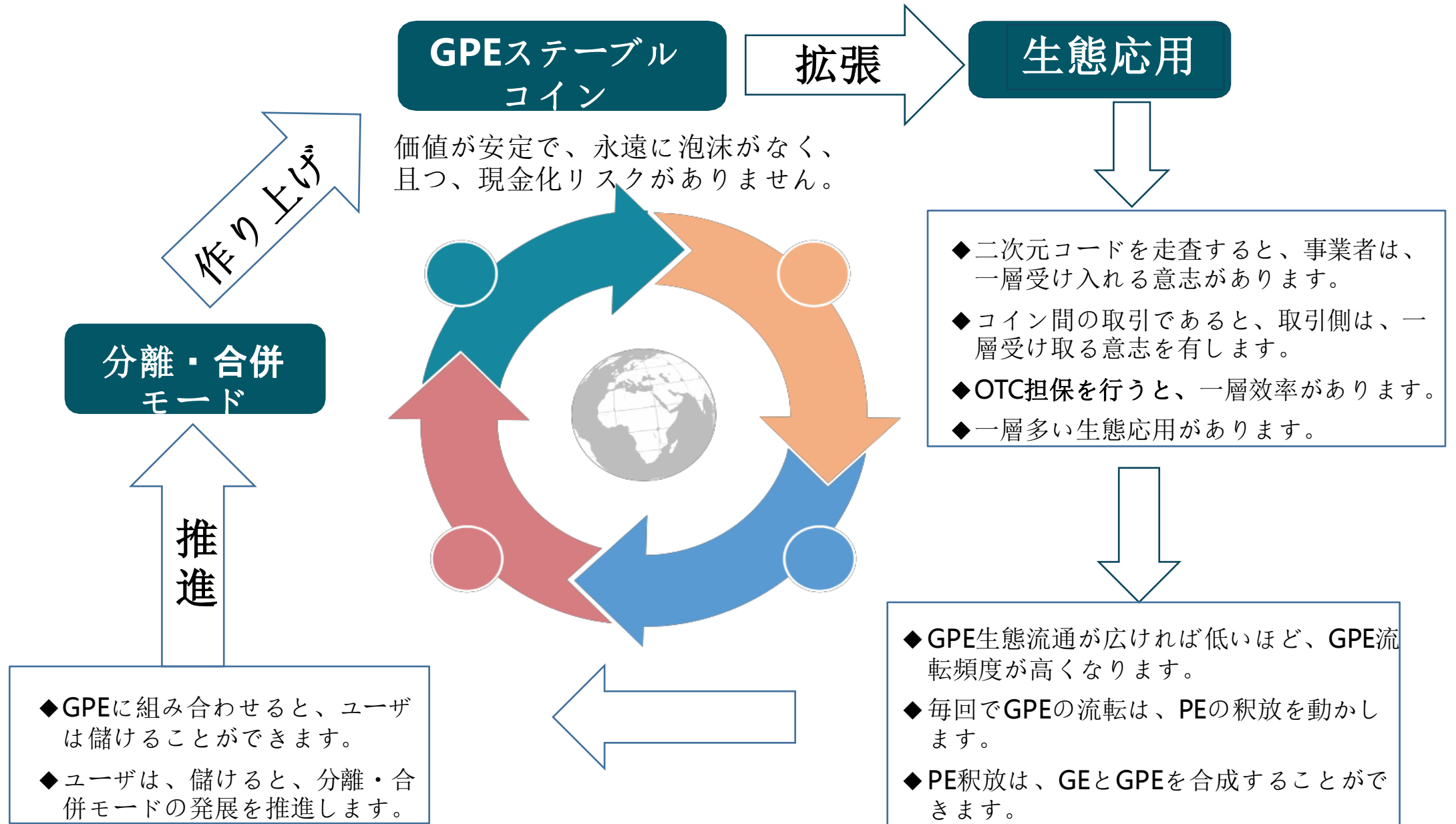


前期が良いですが、中期・後期が如何ですか？

結論

昔のプロジェクトは、いわゆる生態で適当に寿命を伸ばすしかできないので、持続可能経営を実現できません。なぜかという、媒体が永遠な泡沫である為です！

▶▶▶ GPE支払の生態系





2019

ご観覧いただきまして、ありがとう
ございました!